

会 議 録

1 会議名

令和4年度第8回直江津区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【自主的審議事項】

- ・直江津まちづくり構想について（公開）

3 開催日時

令和4年9月27日（火）午後6時30分から午後7時35分

4 開催場所

上越市レインボーセンター 多目的ホール

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 青山恭造（会長）、田中美佳（副会長）、磯田一裕（副会長）、
今川芳夫、河野健一、久保田幸正、坂井芳美、田中 実、田村雅春、
中澤武志、古澤悦雄、増田和昭、水澤敏夫、水島正人
(欠席者2名)
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

8 発言の内容

【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【青山会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：中澤委員、増田委員に依頼
議題【自主的審議事項】直江津まちづくり構想について、事務局へ説明を求める。

【中村センター長】

前回の地域協議会で、自主的審議事項「直江津まちづくり構想」については、地域協議会として「令和6年度に向けて検討することとし、令和5年度予算要求は見送る」という結論となった。その際、事務局としてはっきり指摘しなかったが、地域協議会は実働部隊ではなくいわゆる「地域の相談役」として、団体が計画・実行している事業について、効率的・効果的に進むよう助言する立場と考えている。具体的には、団体同士の連携を促したり、事業の実施方法についてアドバイスすることなどを想定している。

会議の翌日に、一委員から「見送りを再考できないか。複数の委員の意見である」という相談を受け、今話したことを含め磯田副会長に相談したところ、直江津プライド2021で「直江津のランドデザインを描く」事業として、令和5年度予算に向けて提案したいという意思表示がなされた。その旨を磯田副会長から青山会長に伝えたところ会長から「了解した」旨のことであったが、地域協議会での結論と違う方向であるため、地域協議会に報告すべく協議会の開催を正副会長で検討し、本日開催することとなった。

地域協議会としては、今後、直江津プライド2021が実施しようとしている「直江津のランドデザインを描く」事業がうまく進むようにアドバイス、意見交換をすることはできると考えている。

【磯田副会長】

経緯は、センター長から説明があったとおりである。前回の会議で話をした内容と翌日にセンター長から聞いた話の内容との認識の違いがあり、我々ができると思っていたことができない現状の話があった。それであれば、直江津プライド2021で出すしかないという結論に至った。

そのことについて、本日皆さんに説明し意見をいただきながら、どのように提案していったらいいか、あるいは、地域協議会として、この提案についてどう認識していただけるのかを議論したい。

本日、2つ資料を用意した。直江津区地域協議会としての地域独自予算提案の整理と独自予算のエントリーシートである。

まず、独自予算の整理のほうは、私の受け止め方なので、事務局としてどういう意図がある発言だったのか、記載内容に違いがあれば訂正を願いたい。

1) ①今年度、元気事業の提案は出来ない。また、元気事業は今年までである。提案できない理由として、元気事業の協議の枠組みでは提案書提出までに行政と協議が必要

であり、現時点での提案書の提出は不可能である。

②「直江津まちづくり構想」という地域計画づくりは、市としては行わない。協議会の発意、提案だとしても独自予算で地域計画づくりを求める事業は駄目である。

③総合事務所等で検討し、令和5年度独自予算に提出することはしない。直江津のまちづくり構想を地域協議会の発意として出して、総合事務所等で市の予算として提案することはしない。また、計画づくりではない事業、例えば、三八朝市の活性化事業、福島城の事業としても今年度は提出しない。

「(仮称)地域独自の予算」の概要案にある「地域協議会で検討」し、「地域を元気にするために必要な提案事業や意見書」を提出するという道筋はもうない。「総合事務所等での検討」という道筋もない。残るのは、地域の団体で実施する継続事業、もしくは、新規事業だけである。今年度ではその道筋しかないという話であった。

そうであれば、4月から議論してきた地域協議会としてのまちづくり構想という計画づくり、あるいは、それを実施していくことは令和6年度提案であっても難しそうだと認識した。地域の団体が独自で何かを行う分については構わないという話である。もちろん概要案の①②に該当する事業であればということになる。そういう中で、地域協議会の発意、議論、提案はどのように実行されていけるのかが見えていない。今年度については、団体が提案する道筋しかない。あるいは、団体と協議しながら進めていく道筋しかない。

センター長の説明で「事務局は、はっきり指摘しなかったが、地域協議会は実働部隊ではなく、地域の相談役として団体が計画、実行する事業について、効果的に進むように助言する立場である」と言われたが、今までの我々の認識、あるいは、今までの市からの要請の議論の中では、地域の相談役という立場は2歩程後退した話になっているのではないかと認識している。

まずは、令和4年度の動きの中では、団体が提案するしかないということで、直江津プライド2021で今までの自主的審議の議論をふまえた提案を出したいと思っている。

2) 今年度提案は、直江津プライド2021で継続事業として提案する。

①令和5年度の独自予算での取組として、ランドデザインを描く事業で提案をする。

②今回の提案では直江津まちづくり構想の策定は目指さず、地域協議会が協議を続けてきた個別課題について、市民参加による課題解決の方法や道筋、そして、主体的に解決に取り組む実施団体(地域運営組織)になっていきたいという思いがある。そういう

ものの構築を目指した提案としたい。

③課題解決の検討事項案として、次の項目を令和5年度提案とする。1つは、三八朝市の存続、活性化、利用促進等についての議論をテーマにあげる。2つ目は、直江津屋台会館の利活用について掘り下げることがを、今回、直江津プライド2021の継続事業として行いたい。これらの課題は、直江津区の自主的審議において長年議論されてきた課題であり、また、今後の審議テーマとして各委員から提案していただいたテーマでもあることから、今回2つのテーマで議論を進めていきたいと思っている。

④この事業の提案団体は、直江津プライド2021であるが、地域協議会と地域団体が連携し提案する事業として本日の協議会で承認いただければありがたい。それについて、議論していただければと思っている。あくまでも、提案団体は直江津プライド2021になる。具体的な事業内容はエントリーシートを参照いただきたいと思います。エントリーシートでは、予算はまだ出来ておらず、何を実施するかまでである。地域団体の提案事業としてだけでは、落とされる可能性がある。この事業は、今までの直江津区地域協議会が進めてきた自主的審議をふまえた提案であることをご理解いただいて、後押しをお願いしたいということである。

3) 令和5年度事業の提案の議論が終わった後に、今後の自主的審議の方向性と令和6年度に向けた連携提案という枠組みに向けてどういうことができるのか。地域協議会の発意、地域協議会の提案と地域の団体と北部まちづくりセンターが連携した形で令和6年度の独自予算に出せるのかの確認、協議させてもらえればと思う。

まちづくりセンターの役割として、今年は時間切れで地域団体の提案のみだが、令和4年度後半から令和5年度前半にかけて3者が協議を行ってまちづくりセンターが市の取り組む事業として提案することを目指しているのかどうか。我々はこの後どういう議論をしていきながら地域協議会としての存在意義や今まで検討してきたことの実を結ばせることができるのかということ議論させていただければと思っている。

エントリーシートの対象とする取組としては、概要案2ページの①地域資源を活用した新たな収入源や雇用の創出等につながる取組、②の地域での暮らしやすさにつながる助け合い等の取組を考えていく。そして、できれば事業化までもっていけるような形になっていきたいと思っている。例えば、直江津屋台会館を今後どのように活用していったらいいかという話の中で、何らかの地域組織を作りながら雇用の創出だとか新たな収入源の話にまで検討できるかどうか。そこに令和6年度の予算という話も出てくるかも

しれない。そういうところを目指して議論をしていきたい。グランドデザインを描くという事業の中で、令和3年度は直江津のウォーターフロントをどうしていったらいいかという検討をしてきた。その両端にある三八朝市エリアと水族館エリアの施設、行事、生業としての三八朝市というものをどのように良くしていくか。そういうことを考えていくのが今回の直江津のグランドデザインの事業である。まちづくりのプレーヤーを発掘する、やる気になってもらう、そのためのワークショップでもあるし、そういうプレーヤーを増殖させることで活性化につながっていくことを期待する効果として考えている。地域協議会の有志の皆さんにぜひ参加していただいて、一緒にこれを作り上げてほしいと思っている。テーマとしては「三八朝市の未来を考える」「直江津屋台会館の活用を考える」という2つのテーマを1年間かけて検討していく。4月に募集チラシ、動きの整理や問題提起としての検討案を検討していきたい。5月から月に1回ワークショップを実施していく。各テーマ4回のワークショップを行って、最後に市民向けの報告会や意見交換会を1月に開催し、2月に事業化提案の検討及び作成、3月に提案書を提出するという、丸1年の事業と考えている。皆さんの意見を伺いたいが、事務局から私の受け止めに補足があれば伺いたい。

【中村センター長】

まず、この間、地域協議会には、市の制度が変わったり、地域活動支援事業が廃止になったこと等、いろいろ説明をしたり、お願いをしてきている中で、委員の皆さんも戸惑っているかと思う。

1) の②のところで、言葉を足してほしいのが、地域協議会の発意、提案としても独自予算で、「市に」地域計画づくりを求める事業は、難しいという話はさせていただいた。1点確認させていただきたいのは、市では現在、総合計画の策定を進めているがその中で地域、区ごとの計画は作らないという方針を立てている。独自予算の制度を使ったとしても作らないと方針が決まっている地域計画づくりを市に求める事業は提案できないということである。

また、③については、令和5年度の予算に向けて中心になるのは今ほど申し上げたとおり、令和元年度から4年度に採択された地域活動支援事業、継続事業の提案になるかと思っている。令和5年度予算に、新規でまちづくりセンターが提案することは可能である。ただ、内容に熟度が必要だということで、タイムスケジュール的に今の状況では、計画づくり以外の他の事業で発案を受けたとしても、練り上げる時間がないため、

事実上難しいと思っている。

3) センターの役割については、北部まちづくりセンターは6区担当しており、地域協議会、地域団体が連携していただいで地域を元気にすることは、地域独自予算なり、地域協議会の役割でもあるので進めてもらえればよいかと思う。北部まちづくりセンターも人員的に厳しいところもあるが、地域協議会の事務局として、また、市の一員でもあり、市長からは職員が積極的に関わるという話もあるので一層取り組まねばならないと思っている。

【青山会長】

磯田副会長の提案及びセンター長の説明について、質疑を求める。

【田村委員】

2) の地域独自提案の整理の③に、三八朝市の存続、活性化、利用促進等についてとあるが、提案しようとしていることを事業団体は知っているのか。

【磯田副会長】

地域の課題について、基本的に誰が提案団体でも構わない。我々の団体が提案してもいいし、他の団体がしてもよい話である。また、今まで活動してきた団体をないがしろにするということではない。

【田中実委員】

3点伺いたい。

1点目、直江津プライド2021は実働部隊が何人いるのか。

2点目、何故、地域協議会を巻き込んで、事業を行いたいのか。

3点目、エントリーシートの中でワークショップを多く行うようになっているが、実際にこの書類はもうできているのか。

【磯田副会長】

まず、1点目は、8名のメンバーで構成されている。

2点目は、巻き込んでと言われるが、むしろ地域協議会としてどうあるべきか、どうしたいのか、どうすべきかが最初にあって、今年度、地域協議会として動ける道筋がないので、我々の団体が令和5年度の取組を提案する。9月13日の議論の中では、今回は出さずに、令和6年度に向けての事業として引き続き協議していくこととなったが、地域独自の予算の枠組みとして、地域協議会は元気事業としては出せない、地域の相談役にしかなれない中で、どう事業を動かしていったらいいかを考えた場合に、団体提案

ということに至った。

3点目は、9月30日が提出期限である。エントリーシートは、まだ予算的な部分は作成していない。もし、皆さんからの意見をここに反映できるのであれば、今日、それを受け止めて話をしていきたいと思っている。

【田中実委員】

メンバー8人で直江津のまちづくりを動かすのは厳しいと思う。次に個々で提案する分に関しては、私も相談に行ったが、ある程度行政としても協力できるかもしれないが、望みは薄いといった返答であった。直江津プライド2021単独で事業をされたほうが良いと思う。私の直江津のまちづくりの考え方とエントリーされている考え方が合わない。

【田中美佳副会長】

今まで議論してきた中で、今年度の提案は難しいという話になったと思う。そこで、私たちは何ができるのかと疑問に思った。予算は市が精査することなので、今年できることは、地域活動支援事業の皆さんの中の問題点について、相談役として対応することで満足するのか。今まで議論してきた三八朝市をどうしていこうかとか、福島城をどうしていこうかには、実働部隊として関わることは難しい状態にある。実際に関わるとすれば、直江津プライド2021の提案事業に有志として参加するのが今年の道なのかと思った。

【田村委員】

市民団体の人数は関係ない。熱意の問題である。ただ、地域協議会として磯田副会長が示した、何とかして直江津の町を活性化させたい、人口を増やしたい、育児・子育ても立派な町にしたいといったことを目指している方向性は間違っていないと思う。私は長年、地域協議会委員をやっているが、三八朝市の問題は何とか道筋をつけたい思いがある。私自身が子どもの頃に親に連れられて行った朝市の記憶があるので思いが強い。提案の中に三八朝市の問題も入っているので、どうやって活性化していくのか、利用者を増やしていくのか。最近は若い人も増えてきている。

【田中実委員】

最低限5人いれば活動ができることは十分承知している。この話をするにあたり、私は、地域住民とさまざまな場所で話し合いをしてきた。磯田副会長が一生懸命活動されていることはわかるが、ワークショップに関しては理解できない。今まで、何年もやっ

てきていることをまた来年も繰り返す。今までのワークショップで、どれだけいい提案があったのかお聞きしたい。

【古澤委員】

ワークショップをするといろいろな意見が出てくる。それは、それでよい。その中から回を重ねてひとつの方向にもっていけばよい。これからは、ひとつの方向に向かっていくなれば、目指す方向をきちんと示して、三八朝市をこういう方向に持っていくといった結論的なものを固めながら、最終的には皆さんの納得する最大公約数を決めて取り入れていけば、必ずよい取組ができるのかと思う。今、いろいろな意見が出てよいのだが、それがまとまらないのであれば、我々の思いを固めて行って、その中で行政、関係団体とも相談しながらこれでいこうと持っていっていったらよいのではないかと。

【久保田委員】

この提案に賛成である。先般、我々も構想ということでアンケートをいただいた時にいろいろな意見が出たが、ほとんど似た方向の意見だったと思う。磯田副会長のまとめていただいたものに、だいたい合致していたと思う。そして、今までの取組をみると各団体が自主事業として提案してきたものを地域協議会で審査してきたが、今後は、地域協議会と各団体で連携を取る中で進めていかなければいけない状態になってきたのだと思う。各団体におまかせではなく、地域協議会の委員もそこに意見を言いながら直江津の構想をどのようにしていったらいいのか、前に進める1つのきっかけになっていくよい提案だと感じている。

【田中美佳副会長】

今後のことについて、先ほどセンター長からもお聞きしたが、来年度は、地域協議会と地域とまちづくりセンターが一体で事業を進めていくという形でいくということによいのか。

【中村センター長】

まちづくりセンターとしては、基本はその形でよいと思う。

【増田委員】

そもそも地域独自予算は、まちづくりセンターと地域協議会と地域団体でつくるものではなく、地域住民の意見を聞いて課題を把握してとある。そのことを今年は何もしてきていない。時間がなかったからできないかもしれないが、今後、地域の住民の皆さんの意見をどのようにお聞きして、反映していくかの道筋が非常に大切だと思うので、そ

の道筋についてもセンターでどのように考えているかお聞きしたい。

【中村センター長】

増田委員から地域の声を聞くと言われたが、そのとおりだと思う。この間、直江津区地域協議会では町内会長に来ていただいたり、三八朝市の団体に来ていただいたりした。直江津プライド2021のエントリーシートからは、三八朝市と直江津屋台会館になるかと思うが、それ以外の団体との意見交換も考えられるので、また、正副会長とも相談しながら、そういった機会も設けていきたいと思う。

【増田委員】

地域の皆さんと一緒に考えると言ったが、実は、地域の皆さんにも市民の皆さんにも地域独自予算が何かの説明がない。市民も住民も全く置き去りにされている。これで、この仕組みを進めていってよいのかということになる。これは大きな問題だと思うので担当課に伝えてほしい。

【磯田副会長】

今回の事業は、提案団体が直江津プライド2021であるが、地域協議会と地域団体が連携し提案する事業として皆さんのご承認をいただきたい。

【増田委員】

この段階で地域協議会が承認する、しないという問題ではない。直江津プライド2021でエントリーしてもらえればよいと思う。それに対して地域協議会で、今できる、できないと意見を言える立場ではない。ただ、磯田副会長は「地域協議会の皆さんにもご協力いただいて、一緒に考えていきたい」という説明だと受け止めておき、あとは、実際にスタートした時に有志の皆さんと一緒にいきたいとなれば、よいスタートが切れると思う。

【磯田副会長】

では、承認という言葉は使わず、私が説明してきた地域協議会での自主審議を基にした提案であるということについて、皆さんの了解をいただきたい。

【青山会長】

よろしいか。

(同意の声)

次に「その他」について、事務局へ説明を求める。

【小川係長】

・次回協議会：10月11日（火）午後6時30分から

【青山会長】

・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL：025-531-1337

E-mail：hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。